

ルイヨウショウマ *Actaea asiatica* H.Hara

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、補正+1 (シカ食害)、総点 15。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。茎は分枝せず、高さ 40~70cm になる。茎葉は 2~3 枚で大きく、葉身は 2~4 回 3 出複葉、小葉は卵形または狭卵形、鋭尖頭、長さ 4~10cm、ときに 3 裂し、不ぞろいのあらい鋸歯がある。葉質は薄く、脈上に細い毛がある。花期は 5~6 月、茎の先端に短い総状花序をつける。花は白色、がく片は倒卵形で長さ約 3mm、花弁はへら形で基部は狭まり、長さ 2~3mm である。果序は長さ約 6~8cm、果柄は太く、長さ 12~17mm、開出または水平に開く。果実は黒色に熟し、球形で直径約 6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (加藤等次 4445, 1994-5-17)。4 津具にもあるという (小林 2006)。

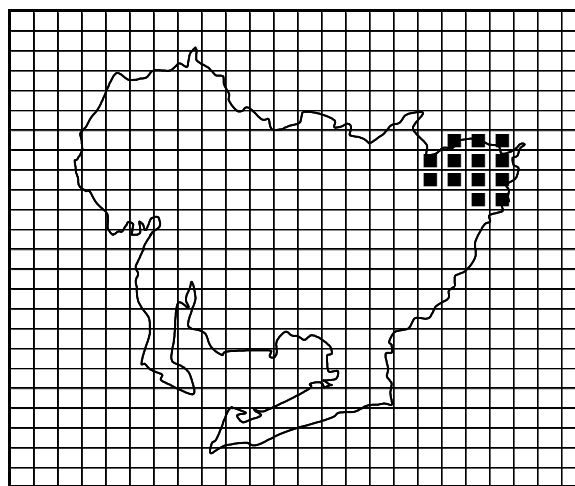
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリーに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数は少なく、過去の自然林が広範囲に伐採された時代に大きな影響を受けたものと思われる。最近ではニホンジカの食害によりほとんど見られなくなっているという (小林 2006)。

【保全上の留意点】

茶臼山周辺は、愛知県の中では温帯性の植物が集中して生育している場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、これ以上の開発は避けるべきである。とりわけ、沢の源頭部に僅かに残る自然林は、注意して保全する必要がある。

【特記事項】

和名は、葉がユキノシタ科のショウマ類に似ているからである。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.138. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草Ⅱp.205, 平草Ⅱp.61, 平新版 2 p.131.